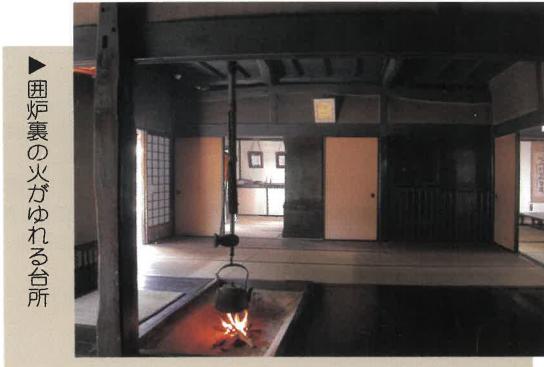




▲千秋・国武の書が掛かる上座敷



▶開炉裏の火がゆれる台所



斧藏は江戸勤めの時に絵を習つて、優れた絵も発見されている。左の絵は「釣りをしている仙人」

渡辺家関係資料の収集

岡谷市教育委員会と旧渡辺家住宅保存協力会では、渡辺斧藏の書画・文書、三大臣の書・手紙など、渡辺家ゆかりの人々の資料を収集しています。参考になるものがありましたらお知らせください。

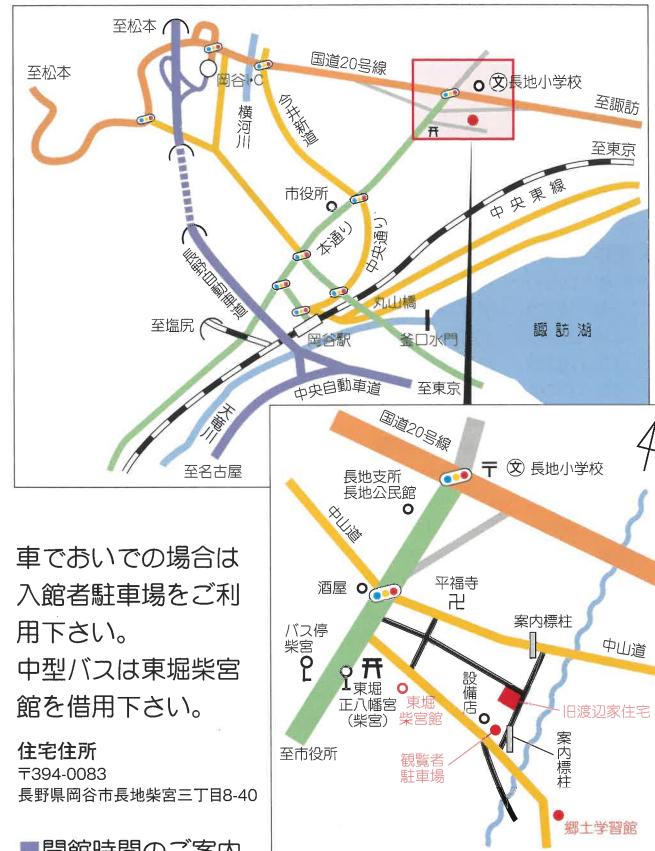
住宅復元の記録や三大臣の生涯について詳しい内容の保存版と、わかり易く読み易い学生向の普及版の2冊が刊行されています。一読をおすすめいたします。

●渡辺三大臣と旧渡辺家住宅 頒布価（税込）1,000円 送料別途
●渡辺家の三大臣 頒布価（税込）500円 送料別途

（いずれも旧渡辺家住宅保存協力会発刊）

[お申込み・お問合せ] 〒394-0083 長野県岡谷市長地柴宮3-9-3
郷土学習館 旧渡辺家住宅保存協力会 0266-26-7545

案内図



車でおいでの場合
入館者駐車場をご利
用下さい。

中型バスは東堀柴宮
館を借用下さい。

住宅住所
〒394-0083
長野県岡谷市長地柴宮三丁目8-40

■開館時間のご案内

- ◆開館日／3月20日～11月3日の毎週火・水・土・日曜日・祝日
- ◆開館時間／午前10時00分～午後4時
- ◆見学希望者は、NPO法人郷土学習館26-7545で受付をして下さい。

■入館料

- | | | |
|---------|------|---------------------------------|
| ◆おとな／一般 | 320円 | ※高校生以上 |
| 团体 | 220円 | (10名以上) |
| ◆こども／一般 | 160円 | ※諏訪郡内在住生徒小・中学生・
市内在住生徒高校生は無料 |
| 团体 | 110円 | (10名以上) |

■お問い合わせ

NPO法人郷土学習館 ◆開館日 毎週 火・水・土・日曜日・祝日

〒394-0083 長野県岡谷市長地柴宮3丁目9-3

TEL 0266-26-7545 FAX 0266-75-5281

市立岡谷美術考古館 0266-22-5854

NPO法人(特定非営利活動法人) 郷土学習館のご案内

渡辺家の千秋、国武、千冬、医聖永田徳本など郷土のすぐれた先人の関係資料を展示しています。
併せて見学されることをおすすめします。（入館料無料、旧渡辺家から徒歩3分）

長野県宝

旧 渡辺家住宅

渡辺家は、
代々諏訪高島藩に仕えた散居武士
(城下町でなく在郷の村々に住んだ藩士)

の家でした。

この住宅の創築年代は
18世紀中頃と推定されますが、
19世紀なかばに改築工事がされて
現状のような間取りになりました。

現存する武士の家が、
全国的に少なくなった今、
この家はたいへん貴重なものであります。

この家からは、
三人の大臣が生まれました。

渡辺千秋（1843～1921）は宮内大臣、
弟国武（1846～1919）は大蔵大臣と通信大臣、
千秋の三男千冬（1876～1940）は、司法大臣
になりました。



岡谷市教育委員会

ちあき 渡辺千秋

宮内大臣

皇室財産の整備に尽力



天保14年 (1843)	父諱訪高島藩士 斧藏、母ふきの長男 として、長地東堀に生まれる。
安政 5年 (1858)	高島藩に出仕
明治 2年 (1869)	伊那県に出仕
8年 (1875)	筑摩県権参事
9年 (1876)	東京上等裁判所判事
10年 (1877)	西南の役 鹿児島県大書記官となる
13年 (1880)	県令に昇進 西南の役後の民心の安定と産業の振興に尽力す
19年 (1886)	鹿児島県知事。鹿児島に計13年5ヶ月
24年 (1891)	5月滋賀県知事 6月北海道庁長官
25年 (1892)	内務次官
27年 (1894)	1月貴族院議員 11月京都府知事
28年 (1895)	宮内省内蔵頭
33年 (1900)	男爵
37年 (1904)	宮内省御料局長を兼ねる 皇室財産整備法を制定する
40年 (1907)	子爵
43年 (1910)	宮内大臣
44年 (1911)	伯爵
大正元年 (1912)	大喪使副総裁
2年 (1913)	大礼準備委員長
3年 (1914)	宮内大臣を辞す
10年 (1921)	78歳で逝去 正二位勲一等伯爵旭日大綬章

くにたけ 渡辺国武

大蔵大臣・通信大臣

長野県出身の大蔵第1号



弘化 3年 (1846)	千秋の弟として長地東堀に生まれる。
文久元年 (1861)	小池家の養子となる
元治元年 (1864)	高島藩出仕、藩主に従い江戸へ出る
3年 (1870)	伊那県へ出仕、中野局大属
4年 (1871)	民部省を経て大蔵省権中属
7年 (1874)	租税大属
9年 (1876)	高知県令に抜擢される
11年 (1878)	渡辺に復籍
12年 (1879)	高知県令辞職 京都郊外に、世俗を断つて住み、英・仏・独の各語を習い、仏典一切経を読破。禪の修養も行う
14年 (1881)	福岡県令
15年 (1882)	大蔵省大書記官 11月調査局長
19年 (1886)	大蔵省主計局長
21年 (1888)	大蔵次官兼主計局長
25年 (1892)	第2次伊藤博文内閣の大蔵大臣
27年 (1894)	男爵
28年 (1895)	伊藤内閣改造により通信大臣となる 8月子爵 大蔵大臣兼任
33年 (1900)	10月大蔵大臣専任、日清戦争後の財政処理に尽力
34年 (1901)	三度目の大蔵大臣となる 大蔵大臣を依頼免官 欧州へ外遊
大正 8年 (1919)	73歳で逝去 正二位勲一等子爵旭日大綬章

住宅の特徴

長野県宝指定 (平成5年8月12日付)

この家が最初に建てられた時代は、南側の座敷の戸口が袖壁をつけた閉鎖的なものであることや、土間の柱が手斧仕上げであることなどから、18世紀の中頃と推定されます。

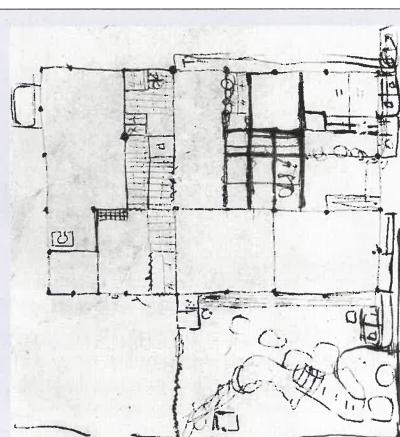
土間が広く、農家とよく似た間取りですが、式台や中床をそなえた座敷などに、武士住宅としての特徴が見られます。

その後、19世紀のなかばに大きな改築工事が行われ、南側にあった主な出入口を北側に移し、北側の板の間や5畳の書斎のような部屋が設けられました。

この改築は、修理工事中に発見された墨書きから、天保11年 (1840) に始められたことがわかり、北側の座敷が完成したのは嘉永3年 (1850) 頃でした。

修理工事中に、襖や張付壁の下張から、多数の文書とともに、改築のための間取図4点、庭の築山の見取図2点が発見されました。これらは、当時の渡辺家の当主であった渡辺斧藏が自分で描いたものと考えられ、全国的にみても非常に珍しい資料です。

この間取図の中には、現在も土間に敷いてある鉄平石が描かれており、当時からのものであることがわかります。



襖の下張から発見されたの間取図

ちふゆ 渡辺千冬

司法大臣

公正な司法権を擁護



明治 9年 (1876)	千秋の三男として生まれる
23年 (1890)	叔父国武の養子となる
33年 (1900)	東京大学法科卒、同年フランス留学(4年間)、ついで欧米視察
37年 (1904)	電報新聞の創刊に参与主幹 日本興業銀行・日本製鋼所・北海道炭鉱汽船等の重役として活躍
41年 (1908)	衆議院議員選挙に、32歳の最年少議員として当選
大正元年 (1912)	日仏銀行東京支店長、大阪毎日新聞社重役
8年 (1919)	養父国武死去 子爵を襲爵し、貴族院議員となり、研究会の改革等に尽力する
昭和 4年 (1929)	7月浜口雄幸内閣の司法大臣となり、当時頻発した獄事件を処理、公正な司法権の発動を擁護した第2次若槻礼次郎内閣の司法大臣となる
14年 (1939)	枢密顧問官
15年 (1940)	64歳で逝去 徒二位勲一等子爵瑞宝章

